

藏書

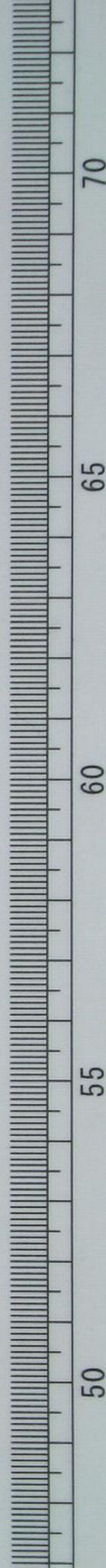
花江都  
歌舞妓

年代記

四編

四

津田文庫  
文庫 1  
1767  
16





御歳玉

林治

早稲田図書印

河津守府 重見里 子者。鬼王栗津谷。武吉浦と四段守四郎。比良や天班。庫の  
 世々思。東方夜多。とて。八百五十七。富之郎。耐字と。舟長。こは。長。祐成と。八百五。跡。能。長。助  
 湯。高。の。之。吉。渡。五。并。船。ひ。さ。と。主。た。る。侍。吉。松。助。と。多。く。は。音。多。る。小。和。田。を。つ。信。真。の。次。弟。小。次。弟  
 浄。る。思。春。娘。婿。已。年。を。堅。津。兼。を。又。助。る。評。判。は。月。前。二。日。より。こ。ま。お。助。六。月。九。日  
 より。神。侍。も。は。都。座。月。十。日。より。い。ろ。は。縁。記。山。中。九。八。百。五。女。房。小。督。守。四。郎。一。子。之。女  
 吉。五。并。船。の。辰。跡。也。花。扇。耶。郎。の。枕。と。は。持。在。仙。八。百。五。盧。十。大。と。は。四。町。評。判。は。五。月  
 五。日。より。盛。衰。記。源。太。と。通。は。の。辰。町。八。百。五。延。書。と。お。き。は。西。町。松。右。女。房。お。は。と。梅。之。二。段  
 の。月。空。月。後。大。評。判。守。忠。と。劫。治。和。田。の。美。盛。園。十。郎。巴。川。右。女。房。と。多。事。二。郎。年。次。三。言。ふ。仁。在。も  
 権。四。并。と。二。段。之。法。中。徳。次。権。系。系。助。五。并。何。事。も。大。出。す。之。月。六。月。九。日。大。塔。宮。永。十  
 右。馬。院。八。百。五。女。房。宛。園。の。月。安。女。房。を。主。た。る。仁。在。も。土。波。養。之。園。十。郎。女。房。子。候。万。葉。之  
 極。彩。色。朝。ひ。る。養。清。仁。在。も。女。房。お。つ。る。万。葉。将。子。市。栗。養。大。松。重。代。法。十。郎。と。お。は。す。見  
 眼。養。園。十。郎。持。養。山。門。持。子。お。助。兵。助。と。官。守。集。五。五。并。を。備。八。百。五。年。女。房。お。改。其

史書集代目

卷之八

一七

時彦之 **千本櫻** 櫻 **より** 経国十郎。多岐軌仁左衛門尉忠信と云ふ。二役八百部。

右様狂言ゆるも大評判。浄瑠璃豊竹旅後を主。之味線社次友吉相勤。四月六日桐座。

けいね時四徳 赤松彦次郎常幸。奴有平之海五郎。吉富門能男。常細川信元。度治。

卷の今五郎三郎。唐人杜世忠。友右衛門大信。助亮三郎。この元は常幸之忠。ささき并。

新平常幸十郎。常幸の致と云と殺と云。常幸十郎。常幸の致と云と殺と云。常幸十郎。常幸の致と云と殺と云。

白松子横木常幸之忠。たかふ坊常幸十郎。河津坊常幸之忠。江谷常幸娘道成寺。正徳大評判。

同五月十七日より **藍橋雁金殿** 文七常幸十郎。安の常幸十郎。常幸十郎。雷庄九郎。常幸十郎。

友左衛門在衣市右衛門男。友左衛門。おぼろ常幸之忠。徳川五郎。常幸十郎。田角九郎。常幸十郎。

忠臣講釈 由良之助 十太前二役男。常幸十郎。おぼろ常幸十郎。おぼろ常幸十郎。おぼろ常幸十郎。

東巻之切。積出常幸十郎。関扉常幸十郎。関扉常幸十郎。関扉常幸十郎。関扉常幸十郎。

大入大前。河津常幸十郎。五月五日。 **關原普請** 湯坂長平。松助。南兵衛。常幸十郎。

おぼろ常幸十郎。おぼろ常幸十郎。おぼろ常幸十郎。おぼろ常幸十郎。おぼろ常幸十郎。

兼助行平。赤次。おぼろ常幸十郎。尾上栄三郎。おぼろ常幸十郎。おぼろ常幸十郎。

より **都津** **出立** 柴之吉。八百部。柴田勝重。仁左衛門。加茂正清。国十郎。常幸十郎。

新なる徳次。五右衛門。女房。おぼろ常幸十郎。おぼろ常幸十郎。おぼろ常幸十郎。

おぼろ常幸十郎。おぼろ常幸十郎。おぼろ常幸十郎。おぼろ常幸十郎。おぼろ常幸十郎。

おぼろ常幸十郎。おぼろ常幸十郎。おぼろ常幸十郎。おぼろ常幸十郎。おぼろ常幸十郎。

おぼろ常幸十郎。おぼろ常幸十郎。おぼろ常幸十郎。おぼろ常幸十郎。おぼろ常幸十郎。

おぼろ常幸十郎。おぼろ常幸十郎。おぼろ常幸十郎。おぼろ常幸十郎。おぼろ常幸十郎。

おぼろ常幸十郎。おぼろ常幸十郎。おぼろ常幸十郎。おぼろ常幸十郎。おぼろ常幸十郎。

おぼろ常幸十郎。おぼろ常幸十郎。おぼろ常幸十郎。おぼろ常幸十郎。おぼろ常幸十郎。

傳九年乙巳。松平清康公。松平内膳之助。友次之孫。九月九日

菅原 菅原相之。八重二役。菅原菅原。菅原九郎。菅原十郎。菅原十一郎。菅原十二郎。

菅原十三郎。菅原十四郎。菅原十五郎。菅原十六郎。菅原十七郎。菅原十八郎。菅原十九郎。菅原二十郎。

菅原二十一郎。菅原二十二郎。菅原二十三郎。菅原二十四郎。菅原二十五郎。菅原二十六郎。菅原二十七郎。菅原二十八郎。

菅原二十九郎。菅原三十郎。菅原三十一郎。菅原三十二郎。菅原三十三郎。菅原三十四郎。菅原三十五郎。菅原三十六郎。

菅原三十七郎。菅原三十八郎。菅原三十九郎。菅原四十郎。菅原四十一郎。菅原四十二郎。菅原四十三郎。菅原四十四郎。

菅原四十五郎。菅原四十六郎。菅原四十七郎。菅原四十八郎。菅原四十九郎。菅原五十郎。菅原五十一郎。菅原五十二郎。

菅原五十三郎。菅原五十四郎。菅原五十五郎。菅原五十六郎。菅原五十七郎。菅原五十八郎。菅原五十九郎。菅原六十郎。

菅原六十一郎。菅原六十二郎。菅原六十三郎。菅原六十四郎。菅原六十五郎。菅原六十六郎。菅原六十七郎。菅原六十八郎。

菅原六十九郎。菅原七十郎。菅原七十一郎。菅原七十二郎。菅原七十三郎。菅原七十四郎。菅原七十五郎。菅原七十六郎。

菅原七十七郎。菅原七十八郎。菅原七十九郎。菅原八十郎。菅原八十一郎。菅原八十二郎。菅原八十三郎。菅原八十四郎。

菅原八十五郎。菅原八十六郎。菅原八十七郎。菅原八十八郎。菅原八十九郎。菅原九十郎。菅原九十一郎。菅原九十二郎。

菅原九十三郎。菅原九十四郎。菅原九十五郎。菅原九十六郎。菅原九十七郎。菅原九十八郎。菅原九十九郎。菅原一百零一

郎。菅原一百零二郎。菅原一百零三郎。菅原一百零四郎。菅原一百零五郎。菅原一百零六郎。菅原一百零七郎。菅原一百零八

郎。菅原一百零九郎。菅原一百一十郎。菅原一百一十一郎。菅原一百一十二郎。菅原一百一十三郎。菅原一百一十四郎。菅原一百一

十五郎。菅原一百一十六郎。菅原一百一十七郎。菅原一百一十八郎。菅原一百一十九郎。菅原一百二十郎。菅原一百二十一

郎。菅原一百二十二郎。菅原一百二十三郎。菅原一百二十四郎。菅原一百二十五郎。菅原一百二十六郎。菅原一百二十七

郎。菅原一百二十八郎。菅原一百二十九郎。菅原一百三十郎。菅原一百三十一郎。菅原一百三十二郎。菅原一百三十三

郎。菅原一百三十四郎。菅原一百三十五郎。菅原一百三十六郎。菅原一百三十七郎。菅原一百三十八郎。菅原一百三十九

郎。菅原一百四十郎。菅原一百四十一郎。菅原一百四十二郎。菅原一百四十三郎。菅原一百四十四郎。菅原一百四十五

郎。菅原一百四十六郎。菅原一百四十七郎。菅原一百四十八郎。菅原一百四十九郎。菅原一百五十郎。菅原一百五十一

郎。菅原一百五十二郎。菅原一百五十三郎。菅原一百五十四郎。菅原一百五十五郎。菅原一百五十六郎。菅原一百五十七

郎。菅原一百五十八郎。菅原一百五十九郎。菅原一百六十郎。菅原一百六十一郎。菅原一百六十二郎。菅原一百六十三

郎。菅原一百六十四郎。菅原一百六十五郎。菅原一百六十六郎。菅原一百六十七郎。菅原一百六十八郎。菅原一百六十九

郎。菅原一百七十郎。菅原一百七十一郎。菅原一百七十二郎。菅原一百七十三郎。菅原一百七十四郎。菅原一百七十五

郎。菅原一百七十六郎。菅原一百七十七郎。菅原一百七十八郎。菅原一百七十九郎。菅原一百八十郎。菅原一百八十一

郎。菅原一百八十二郎。菅原一百八十三郎。菅原一百八十四郎。菅原一百八十五郎。菅原一百八十六郎。菅原一百八十七

郎。菅原一百八十八郎。菅原一百八十九郎。菅原一百九十郎。菅原一百九十一郎。菅原一百九十二郎。菅原一百九十三

郎。菅原一百九十四郎。菅原一百九十五郎。菅原一百九十六郎。菅原一百九十七郎。菅原一百九十八郎。菅原一百九十九

郎。菅原二百零一

菅原





出羽守  
二十

三



玉手  
八百

言  
卷

三

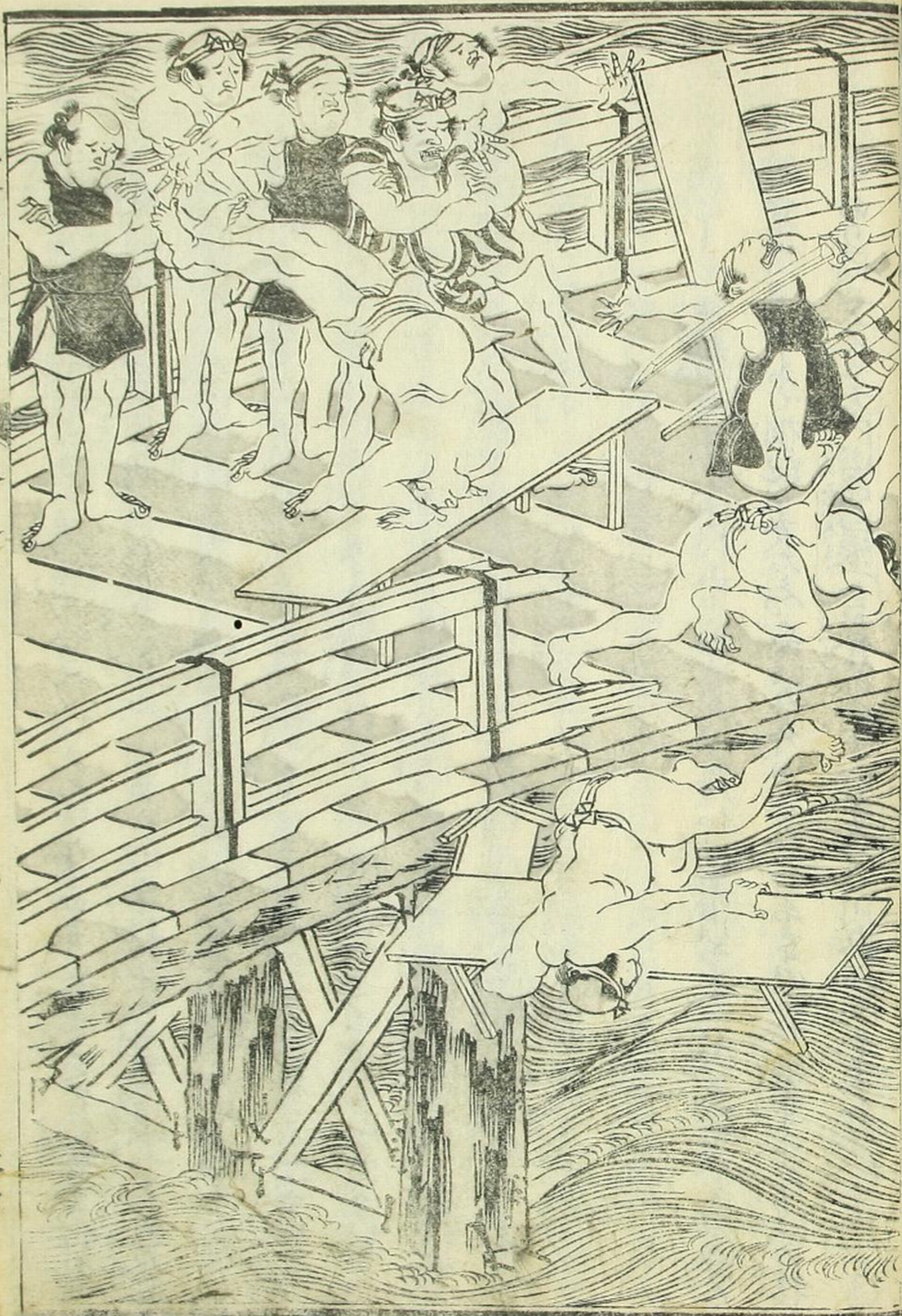
五月十五日より桐座（著夜始小袖曾我）後法経沢村宗十郎奥方柳の多ふ弟之忠八幡  
 のと弟弁義小波若義近江八幡之助氏家八百義鬼王之津五平團三郎と和ひ三夜  
 男女義箱王丸在代弁義力念（示石像の不動言字子郎めて力と成五郎）  
 付宗と名宗討面十郎は侍左郎。澁川兼之郎下りて新造きせ川の亀義の役けしひ坂  
 のお松本宗之郎五人山形津より（懸豆男廓は軍富本をそのまじ延尋并おぼく）  
 大和まよ之信之保壽兵助名ん壽錦次お勤。ゆも大で二夜目（富國慈山開）出ら  
 新三浦宗十郎。五夜村三浦八百義頼岡九十郎は嵐三八町ぐく産毛の合者郎ふ津五平  
 氏系勇義小男女義祐奉女房お孫在代を郎。玉を在代三郎友ちるめて吹矢と耳へ  
 吹こまれ龍耳小波若のは打大評判茨の首三浦東義新橋八百義保三郎は侍九平。玉や  
 娘おる人と二團を小波若小波若之忠箱寄の船宿相のやと娘小門義水茶茶お梅下り  
 澁川兼之郎。同跡狂言と月と日より（濃標浪花馳）扇屋々々力弟之忠けのこ若舟  
 子之助。同じとてえと弟之郎。と津流十郎は侍左郎。ゆも人の茂三浦若義小びく尼小きく

浪之助。後を甥若と郎流三助佐之乃九流を門義。吉田を在代なる男女義能流傳鬼中  
 之は五郎。後を保代なる中郎。また文六八は保を助小八百義。此跡おりの世経和四幕  
 伏見園所の場同若義の任合の場より四月十二日よりおと高松宗なる宗十郎里之保  
 八百義。大館源五ちる三八保助女房おる弟之忠山崎新平は男女義伊助妹お流  
 弟之弟四之五六三浦友なる瓜の三九郎本義。ゆも大で五。五月六日より跡狂言世  
 津流行の五平三浦宗十郎。女房お孫若と忠。その十郎侍左郎。五平は在代を郎る。  
 團三郎は男女義。河所の五平九東義。山木と半八百義。又弟三浦母よ六。鬼王は侍九郎。  
 おるつお弟三郎。流十平は侍九郎。ゆも三浦才助六は女房門世法と時代と一ふ入れ。十幕切  
 まへ持て狂言。五月より五月まで我狂言の跡へ津流判じ。五月廿一日（蘭）  
 新田義貞八百義。寺内小宗十郎。助市おとは五平。女房お孫若と忠。けねを不入りて  
 少一の内にし休と同ま森田座。二月六日より（南園）待講。小野九平は中彦。忠若と  
 子若とと幼孫。おるの奥方尾上は若常世。幼平女房お初小澁川富之郎。忠若と若若

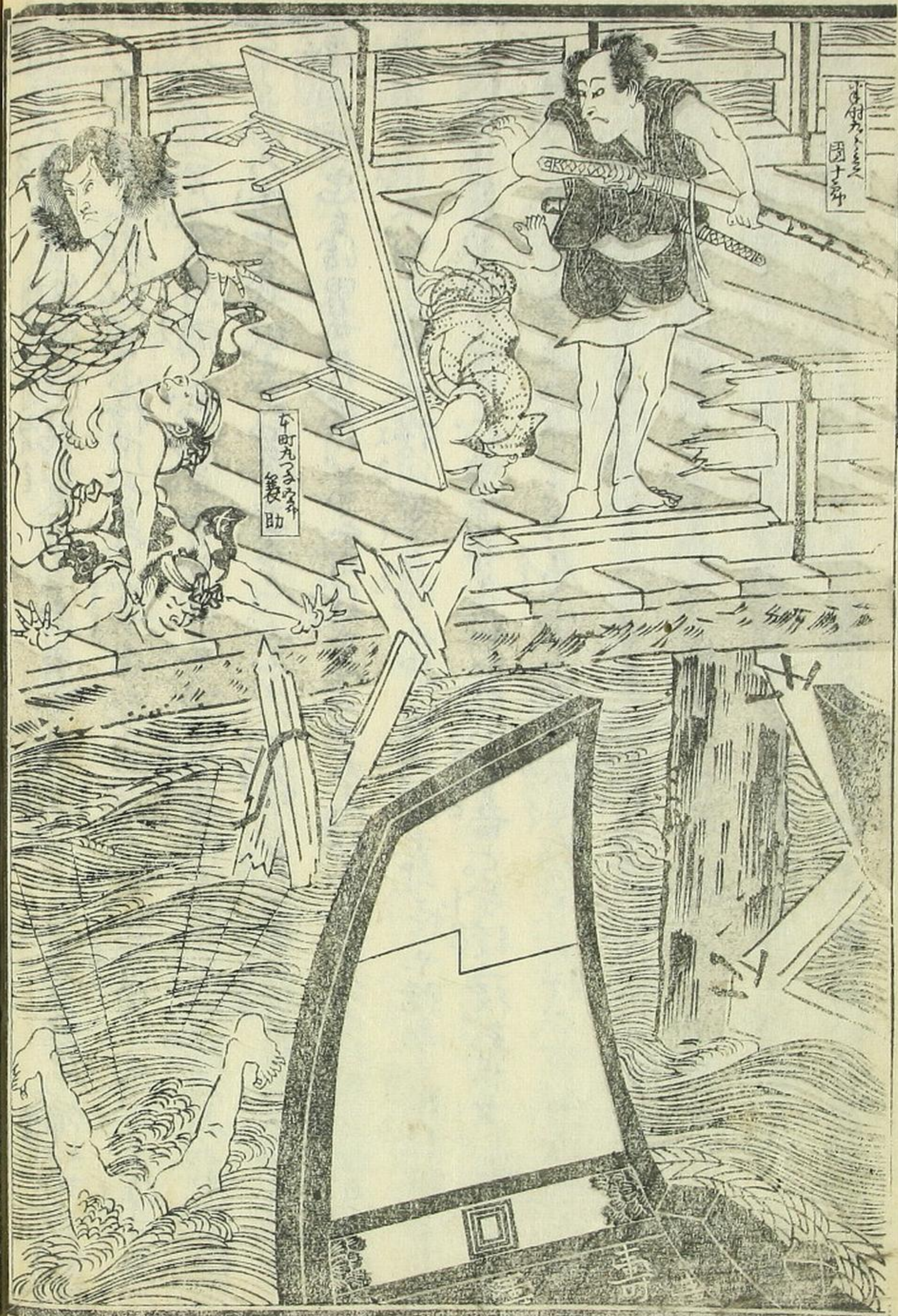
其月年付言 卷之八







木町九子  
無殺助



木町九子  
無殺助

二十五

七州四郎利定園十郎。姉七よごと浮海か女房つゝと存半四年。歌下定家郷と百姓万代  
彦三平。小山の判官松助海平のせれ秋永中山富三郎。平親王の霊と浪人岩倉九郎  
實の系永允近小は後孫。女房園色小のしは赤星内記嵐七平。抄名。浦之助。村  
義助綱海の家。位佐と大谷徳茂。女房尾上栄三郎。か。同五年小園十郎。同  
外記中島和男。位佐も浮判じ七草と持込。狂言。同跡。大内鑑。と。のふと。つれ。の  
保名義助と。至。園十郎。や。入。平。小。三。藤。道。満。小。平。四。郎。の。忠。臣。講。譯。秘。本。の。復。刊。  
切小女鉢木。白妙おのしは最明も幸四郎。浮判じ。同秋相座。智仁豊二回。黒板井允七宗平。  
斤園助。他八百。柴田勝平。小八。生。柴。久。吉。三。海。五。郎。小。田。孝。男。女。孫。小。谷。山。步。松。本。  
弟三郎。宗牛の昔。比代。宗。論。五。平。永。秀。女。老。宅。間。去。女。孫。孝。の。小。竹。秋。月。松。本。  
沢村源之助。こ。え。更。科。若。女。中。村。お。助。女。孫。女。房。お。袖。瀬。川。弟。三。郎。一。と。同。五。五。日。海。平。  
十二段月粧。富本連中。お。相。助。女。老。と。海。五。郎。男。女。孫。弟。三。郎。妙。國。寺。の。藤。沢。の。結。  
あて。下。佐。事。の。同。二。と。名。大。内。出。浪。倉。の。金。十。郎。実。の。石。川。五。左。衛。門。小。十。郎。浦。邊。惣。清。

八百。お。つ。ろ。大。三。平。の。平。と。男。女。孫。宗。清。女。房。お。お。る。比。代。三。郎。の。信。濃。川。弟。三。平。小。鮎。  
の。海。五。郎。女。老。と。一。と。角。力。荒。五。平。沢。村。東。孫。監。藤。三。代。お。次。郎。お。傳。九。郎。保。も。浮。判。じ。  
同八月十六日。の。雪。物。語。雪。の。兵。衛。中。十。郎。幸。傳。伊。賀。五。郎。秋。月。大。膳。六。郎。  
叔。妻。平。の。男。女。孫。こ。え。更。科。若。三。平。ら。雪。娘。弟。三。郎。園。九。郎。女。老。と。宗。平。の。女。老。と。  
傳。九。郎。幸。傳。の。奥。方。秋。の方。小。比。代。三。郎。その。娘。の。奥。方。常。盤。井。女。老。と。岩。波。川。東。馬。  
小。平。孫。お。つ。ろ。民。部。と。海。五。郎。中。の。卷。宗。十。郎。八百。女。孫。女。切。腹。の。場。と。元。之。浮。判。じ。  
右。海。平。の。竹。本。猪。三。夫。と。伝。海。平。勇。二。お。助。同。二。と。名。の。げ。書。義。記。の。由。を。小。三。平。次。清。  
お。房。お。つ。ろ。二。紋。弟。三。平。と。五。平。五。郎。五。平。お。門。孫。渡。を。入。ら。る。東。孫。同。女。房。お。つ。ろ。  
雷。助。江戸。五。左。衛。門。と。友。老。と。と。ん。の。坊。と。八。終。や。孫。お。る。八百。孫。紙。五。治。三。清。三。平。十。郎。  
降。ろ。の。戀。の。橋。じ。富。本。武。老。を。支。富。本。延。壽。齋。之。名。見。孫。存。勉。次。を。記。を。  
里。長。相。助。跡。狂。言。の。昇。七。三。清。實。の。巴。之。孫。お。宗。十。郎。同。佐。三。清。と。男。女。孫。三。平。  
り。の。沢。村。源。之。助。今。の。田。三。郎。け。の。せ。の。奥。外。ゆ。と。と。三。平。と。友。老。と。と。降。ろ。其。得。淺。間。嶽。

ちま三法ともあり。切小等三慈石橋大判判。九月廿九日より十月十二日まで。宇多十郎  
友重より友人太郎宅にり各残狂言**五大刀**。一幕二と八目八とと。薩摩源五三清本  
字事郎。毎の三五三浦友重より。小方等三慈石橋の判判は。藤田府九月九日。妹脊山  
大判判司。徳院國義。太宰の後室さぶ。常世入麻の大巨友。大徳冠藩巨。後八  
清和の民之助。離るる。徳之助。徳所。六府元。又。同。女房。あ。き。市松。日一子  
之。世園。と。郎。と。二。ま。目。振袖。隅田川。聖天町の法界坊と。ら。魂。慈。豊。國。義。隅田川  
の。渡。を。都。も。の。ま。あ。の。か。無。永。楽。を。登。格。を。ら。ふ。中。井。十。年。娘。お。ら。み。山。下。民。之。助。も。代。庄。八  
友。重。で。ら。ち。き。吉。宣。の。吉。田。の。松。の。丸。小。市。松。淨。滴。滴。西。顔。月。次。女。繪。常。盤。石。澤。文。宗  
等。更。連。中。之。味。線。岸。沢。九。藤。相。助。市。川。國。義。市。郎。大。南。の。り。

○私云今年九月下旬岩井杜若治洲樓へ訪ひ事ありて。松と。中村。座。頼。え。世  
役者の抱。え。て。人。と。て。高。村。國。十。郎。中。村。助。五。郎。岩。井。久。兼。之。郎。大。谷。桂。次。沢。村  
東。島。沢。村。源。之。郎。先。井。武。之。郎。也。と。せ。後。世。語。と。載。れ。今。文。迷。惑。致。も。我。亦

出世成道の芝居ゆゑ。以て。通。い。て。事。四。代。目。園。十。郎。の。口。身。と。なり。初。少  
より。高。恩。の。秋。の。そ。う。上。の。養。子。と。成。母。方。の。岩。井。杜。若。治。洲。樓。に。終。る。二。つ。あ。ら。ひ。岸。の  
は。親。の。ま。ま。れ。有。か。と。故。なる。ま。う。の。ち。高。村。見。世。の。座。組。と。成。眞。行。も。お。願。ひ。  
兄。白。猿。の。ま。ま。一。世。代。を。勅。牛。馬。と。成。居。る。こと。愛。せ。一。つ。の。以。相。後。も。と。と。ま。  
今。六。代。目。園。十。郎。に。世。親。見。世。より。座。頭。ふ。ら。と。眞。行。と。と。お。願。ひ。あ。ら。は。根。生  
の。市。川。國。十。郎。は。見。物。極。方。の。ほ。嫌。悪。も。の。り。て。相。意。あ。も。ま。あ。ら。ま。き。お。願。ひ。あ。ら。は。  
是。も。執。り。も。今。下。段。白。猿。五。右。の。役。は。上。中。述。お。願。ひ。あ。ら。は。一幕。も。助。ら。れ。あ。ら。は。  
和。や。な。り。の。役。ど。も。一。且。相。止。居。り。の。り。お。願。ひ。あ。ら。は。府。元。方。より。の。因。院  
に。と。り。あ。り。の。り。の。り。一。向。あ。合。あ。ら。の。り。何。と。も。て。外。は。は。水。魚。の。交。り。あ。る。方  
ゆ。め。は。は。親。と。と。委。細。の。役。は。お。願。ひ。あ。ら。は。お。願。ひ。あ。ら。は。二。向。の。役。は。お。願。ひ。あ。ら。は。府。元  
勅。三。所。は。田。中。半。右。衛。門。牛。馬。の。隠。宅。へ。行。右。の。役。は。お。願。ひ。あ。ら。は。お。願。ひ。あ。ら。は。白。猿。曰  
一。世。代。弟。納。め。世。尊。屋。小。園。居。の。り。廉。食。と。ら。ひ。性。を。養。ひ。と。お。願。ひ。あ。ら。は。狂。言。哉

芝居書

樂まこといふも是をいふまるとは切ふりしけり

杖の影の朋  
夜の友

世にたてて友遠多くなりけり

白猿

月雪花山あり

此通りならぬは、はなまふ終つて又、倅園十郎府頭ふつるも有がうふらぬ。未熟の氣が、いふ来、年外の府へ出勤して其宿ふまざれば、かえりて笑草の座にまゐる。分量のいふら成色と名は、是もらぬ物となる。松再勅の奉の笑草も、免むとんと府も、さうける言を、おそ夜の、さくぬりね。されど、外に思案も、お其、後も行て、さうぐ、頼も、或、さうめ、又と怒りも。のり、は、彼、南陽縣の、卧龍の、り、と、通じも、か、やと、敷夜は、して、湖、口、上、斗、りの、出勤と、極り、け、い、先、寄、初、本、渡、ふ、か、ら、は、市、川、こ、ま、さ、中、山、富、之、助、坂、東、義、助、と、二人、之、者、役、者、極り、夫、より、紋、番、板、出、し、霜、月、朝、日、より、始、る、中、村、在、顔、見、世、花、三、好、鼻、深、雪、後、伏、見、院、の、皇、子、勝、仁、親、王、こ、は、は、揚、名、の、ぬ、度、有、に

助五郎。普門を即、徒次大佛を、身東義。とて赤澤。立同上下。夜を、装て、往る。太力。下へ。三位の、局に、侍女、雲生、の、お、文、三、郎、お、妙、姫、よ、七、之、郎、助、五、郎、今、也、龜、と、引、ち、ら、き、ん、と、さ、る、正、孫、塚、伊、賀、守、定、綱、あ、り、市、川、團、十、郎、普、門、の、出、大、島、  
六代目 市川團十郎自作

あばらくくは、け、く、孫

六代目

市川團十郎自作

夫一簞食一瓢飲、肘を枕の樂を、老人を、益麻の、愛、あ、ま、ふ、く、な、周、の、代、の、四、月、也、雜、煮、の、腹、で、花、道、へ、存、ち、ら、る、お、づ、れ、新、田、丸、中、將、義、貞、が、肘、腋、腹、心、と、呼、び、て、孫、塚、伊、賀、守、貞、綱、尚、羊、積、て、十、八、支、城、に、北、市、川、の、流、あ、ら、ぬ、正、直、二、山、命、交、り、別、深、の、ぶ、と、る、者、揚、幕、切、く、泳、れ、の、青、い、坊、ら、ふ、白、い、公、家、お、正、並、入、ご、赤、蛙、鼻、木、れ、虫、で、け、さ、ま、を、巡、り、ね、度、成、ま、の、み、す、り、早、い、と、存、じ、も、松、阿、と、は、ほ、て、ま、り、の、ま、と、な、ま、も、ま、の、絶、の、杜、若、所、縁、の、人、の、お、足、圓、ふ、星、非、も、中、村、お、と、の、櫓、一、枝、を、鼓、お、起、さ、れ、く、鳥、が、鶉、の、ま、の、鳴、き、け、す、孫、塚、お、父、が、い、ま、の、飯、は、拍、子、あ、ら、む、の、鳥、う、面、影、の、世、の、お、こ、う、と、な、ま、と、び、る、ご、が、ま、の、ち、の、取、り、あ、り、自、傳、の、鼻、れ、は、戸、前、を、衆、と、あ、ら、や、ま、り、ま、り、ん、

せりおの 里見の五平お花井文三郎とのまき勝立弁須田の及弁お柳を郎けお花宮  
 の道見まきこは龍王のお花米奴らと寝て平助次海月のかき平中島助六のこの  
 備平市川お清操養入道生駒中島百右衛門お平まき法中坂東辰義八女のお市川  
 お左衛門お花楓中山常次郎とのまき目お花もお花中。大で元大浮判。園千弁お花文三郎の  
 同四五目浄福院錦着戀山守常盤洋文字ま連中おて五種之助忠顕代を弁  
 牛ふまおの其の綱と玉琴姫よ久保三平お花木養の女。一極の形おて五人。お花木養お花  
 山下万葉同お花中村お花之助。今のお花川。お花考お花。お花中村七之郎。お花雪お花井吉三郎。お花何れお  
 花中。お花夫より巫女お花お花富之郎山伏五合院おてお花お花。お花人お花お花。お花山伏実お  
 花悪公郎お花京と本名お花のりの大神の術お花お花。お花神お花お花。お花辰狐の正解お花お花。  
 錦のお花旗お花をひ合お花。お花風お花お花。お花事お花。お花人お花お花。お花浄お花。お花切る。お  
 下より橋の太木お花せりおとけお花お花錦のほお花。お花かお花。お花其お花。お花の木のお花お花。お  
 妻お花お花。お花巻物お花お花。お花持お花。お花四郎お花。お花大紋。お花同。お花形お花。お花海お花。お花楠。お花行。お花せりお。



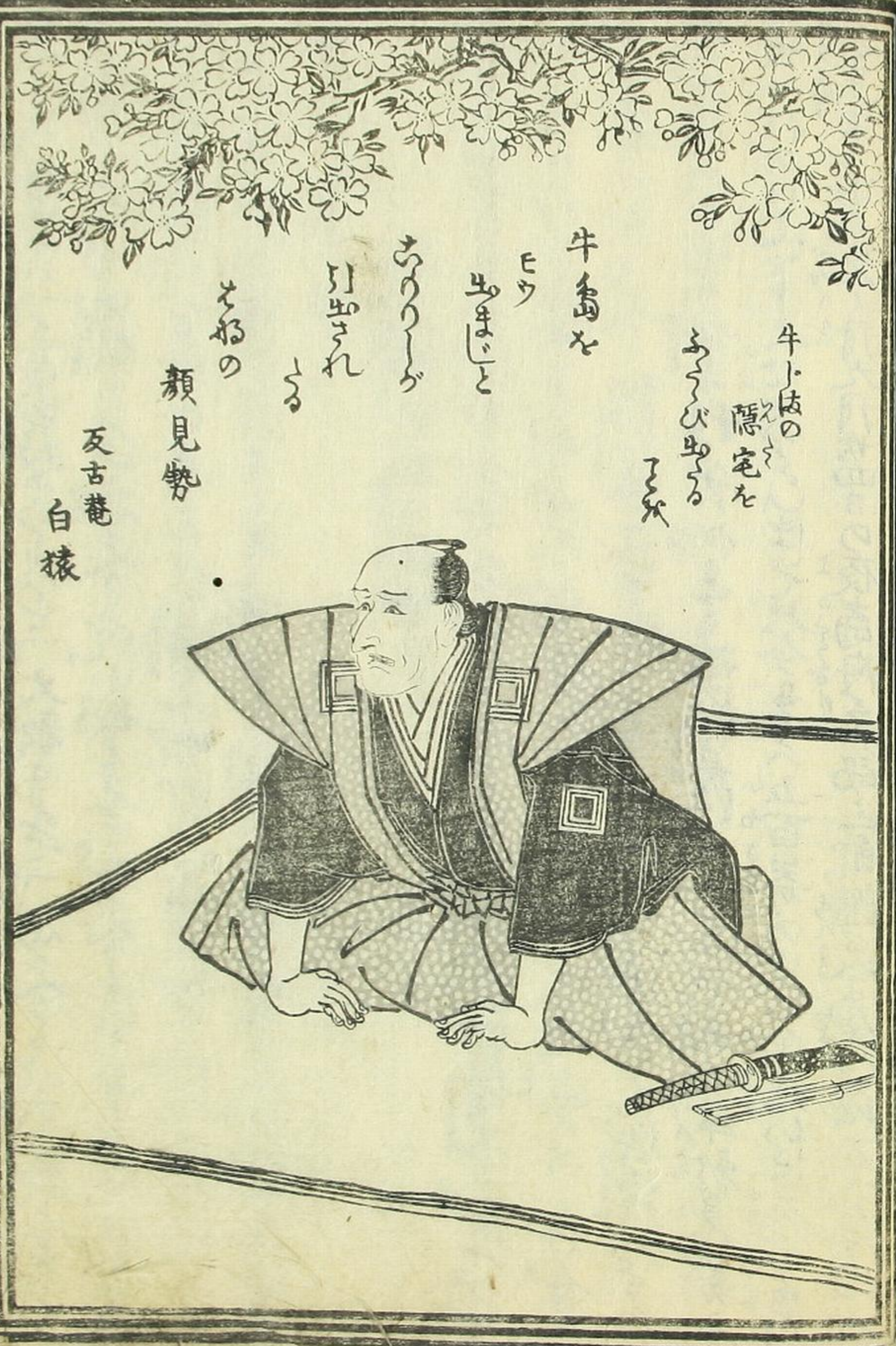
お花中村 四五目

楠坊は四郎

楠坊は四郎

支那年代記 卷之八

楠むく方 牛小郎「シテ公の正の流外元馬谷のり嘆する様本夫正成権井の宿中  
 一子正行の教訓せよと傳へらば」條々中笑する折ふりて一頃の風ふ連雲ふ因り  
 下ふりて「公の山への紅雲の流る錦ふりて中へは錦の正成権井一帝が  
 先達とて中將忠烈々々公の正の流外元馬谷のり嘆する様本夫正成権井の宿中  
 一子の傳へらば」公の正の流外元馬谷のり嘆する様本夫正成権井の宿中  
 運の全を公の流外元馬谷のり嘆する様本夫正成権井の宿中  
 正行くハッアそれ獅子の子と産て三日と教ふ父の谷底へも還さぬふ遊屋と其子  
 獅子のまじりの教訓とてちうちの死とて得とていふは「牛小郎初年  
 とくどもはなむ今小孫一家亡び失四海納るといふも「牛小郎初年  
 今割山は楠電とてあまの安ちなる術のや「牛小郎初年  
 が矢先に「我と紀信が忠比とや「名を惜らぬ武士の常「シテ謀ハ「帷幕の内ハ



ゆゑに「勝平六」も里の好めらるゝ大敵とて「忠八」も「小敵」と見え  
「梅之助」も「サア」大敵とて「忠八」も「小敵」と見え梅之助も「忠八」と當  
都見世の座組の外芝居から「忠八」も「小敵」めめ「梅之助」の中「忠八」も「小敵」めめ  
私め忠八市川白猿とて「忠八」も「小敵」めめ「梅之助」の中「忠八」も「小敵」めめ  
ひきれまをう。東西く。

顔見勢中毎日白猿口上

高きつゝの「サア」と清免の「サア」も「忠八」も「小敵」めめ「梅之助」の中「忠八」も「小敵」めめ  
見仕りながら「サア」も「忠八」も「小敵」めめ「梅之助」の中「忠八」も「小敵」めめ  
ごうの「サア」も「忠八」も「小敵」めめ「梅之助」の中「忠八」も「小敵」めめ  
おひきれまをう。梅之助も「忠八」も「小敵」めめ「梅之助」の中「忠八」も「小敵」めめ  
一世一代の「サア」も「忠八」も「小敵」めめ「梅之助」の中「忠八」も「小敵」めめ  
私を「サア」も「忠八」も「小敵」めめ「梅之助」の中「忠八」も「小敵」めめ

とありはして「サア」も「忠八」も「小敵」めめ「梅之助」の中「忠八」も「小敵」めめ  
大方「サア」も「忠八」も「小敵」めめ「梅之助」の中「忠八」も「小敵」めめ  
き人「サア」も「忠八」も「小敵」めめ「梅之助」の中「忠八」も「小敵」めめ  
成く「サア」も「忠八」も「小敵」めめ「梅之助」の中「忠八」も「小敵」めめ  
仕「サア」も「忠八」も「小敵」めめ「梅之助」の中「忠八」も「小敵」めめ  
興「サア」も「忠八」も「小敵」めめ「梅之助」の中「忠八」も「小敵」めめ  
私方「サア」も「忠八」も「小敵」めめ「梅之助」の中「忠八」も「小敵」めめ  
私「サア」も「忠八」も「小敵」めめ「梅之助」の中「忠八」も「小敵」めめ  
春「サア」も「忠八」も「小敵」めめ「梅之助」の中「忠八」も「小敵」めめ  
才「サア」も「忠八」も「小敵」めめ「梅之助」の中「忠八」も「小敵」めめ

夫故は四半中ごとの不芳にぞ。夫は兄弟をぢめぞ世日は上むる云ふて下まは  
 そ子油ハ甥の園十郎と。アガ乳母は成母親は成て守育何養換の思召も願を  
 曲形も世話をゆめても入ませる不府の芝居を飾りのつほい世話のゆめは仕  
 なる。何し養換のお後も忍入るやど。ごぞ世方年役おは山紙の口上とア上て具  
 との程で△夫故私も六代恩義おはり。キと權の寸ま云眼を退務はと入程  
 ても居られはせご。口上斗るが羨知いして。法合はて△夫はまよりの四郎もほび  
 ますて出精いじ。世初も躍初も世界定も故。教見勢ね云の替古おをりほ。さ  
 亦おは合と高番初め傍軍もぐ一友人又加りほて大概府組も搦はて△  
 夫故私かキル。モウ是程お府組も搦は上う。アが口上及まひ。口上免と  
 是の口上未たれば。皆弟が以の外腹をま未てま。兄を替はらぬあ。志の程とや  
 こまの口上とて。きかて。これの斗り。アがめせして替古おか。るやう。の。つ。お。ど。  
 今お成ておはれ。おまひの。と。ま。と。て。お。白。お。△。ら。ぬ。い。そ。上。方。へ。も。お。り。ま。せ。う。と。

まあが私か。み未何養換お存の通り。お田郎と。母方れ各箇の相替は。因  
 の。手。より。孝。行。よ。い。じ。只。未。し。者。と。お。ま。う。の。お。ま。ひ。の。と。年。以。未。も。社。年。と。一。一。  
 人。そ。ま。の。お。お。ま。は。して。氣。の。毒。の。△。い。お。替。は。と。ま。て。け。る。中。に。上。お。お。ま。は。ら。る。が。  
 何し養換。一旦は并未と。ア上て何おはる。ぬ。徳。換。は。役。者。の。成。ま。せ。ぬ。今。日。お。ま。は。  
 ても役者で△らぬ。徳換の白粉を附ませ。ご。お。曼。と。ま。と。て。衣。裳。と。ま。ま。と。て。只。元。天。窓。お。  
 上。下。も。し。を。年。と。て。成。田。五。七。を。と。と。の。親。仁。が。お。因。縁。の。お。お。ま。は。し。て。ご。と。ご。と。ご。と。  
 下。さ。れ。ま。せ。う。只。か。か。う。に。お。ま。は。し。る。も。お。と。郎。笑。万。年。も。打。續。未。か。う。に。お。お。ま。は。し。  
 よ。の。外。の。お。△。り。ま。せ。ぬ。養。お。替。が。成。換。役。と。し。ら。ほ。し。は。し。は。ぬ。お。六。代。の。お。お。ま。は。ら。ぬ。  
 立。ゆ。え。と。ぬ。ま。も。極。の。心。も。因。の。お。と。ま。と。ら。父。子。と。も。に。お。ま。は。ら。ぬ。も。お。ま。は。ら。ぬ。お。お。ま。は。ら。ぬ。  
 芝居おま。ま。と。て。お。替。園。十。郎。府。の。隣。町。に。置。ま。す。て。お。の。口。上。の。八。百。番。が。成。換。お。お。ま。は。ら。ぬ。  
 お。お。ま。は。ら。ぬ。お。の。園。十。郎。が。府。頭。で。△。本。お。お。ま。は。ら。ぬ。お。お。ま。は。ら。ぬ。お。お。ま。は。ら。ぬ。お。お。ま。は。ら。ぬ。  
 紋の府頭は打廻り。拙者がたまたまおま。ま。と。ら。お。お。ま。は。ら。ぬ。お。お。ま。は。ら。ぬ。お。お。ま。は。ら。ぬ。お。お。ま。は。ら。ぬ。



親仁の一旦眼をさすまで又出ると氣のきねなるやとあまのまじり  
なされうると子役の時ふは初奔を執事やうにむかひてはまじり  
只今これ  
即ち上あふ海の内もあつたは機嫌の社お声をひり晴天の白日と  
眼も定り人気が付きて何れのお教を社へ上されはつても  
△り幸し。私も南年五十八才成すか。叔父役者之苦勞の家業は  
の早竟れも様のお教先祖の教で赤いも私か。十年の余も座頭  
退る上らる。モウあつく奔着へおまひと。あまのて在まじり  
の社辨をさして氣がたたくはで。又役者に候ふあまのまじり  
あまの種も一睨とませう。相替は久し。△り幸し。私もあひ  
隠居のし。下もお基とははして。好まねまじり。将基とは  
行ふ一首はした。叔父の御意と承り。将基とははして。好ま  
は四郎お花車手退ると言ひはして。桂馬の高上のに上り上  
は四郎お花車手退ると言ひはして。桂馬の高上のに上り上

は四郎お花車手退ると言ひはして。桂馬の高上のに上り上  
は四郎お花車手退ると言ひはして。桂馬の高上のに上り上  
は四郎お花車手退ると言ひはして。桂馬の高上のに上り上  
は四郎お花車手退ると言ひはして。桂馬の高上のに上り上  
は四郎お花車手退ると言ひはして。桂馬の高上のに上り上  
は四郎お花車手退ると言ひはして。桂馬の高上のに上り上  
は四郎お花車手退ると言ひはして。桂馬の高上のに上り上  
は四郎お花車手退ると言ひはして。桂馬の高上のに上り上  
は四郎お花車手退ると言ひはして。桂馬の高上のに上り上  
は四郎お花車手退ると言ひはして。桂馬の高上のに上り上

園十郎六郎とて鶴を奪ちたる所の。次の幕小山田を即善助とて此亦六郎の宿  
 也名園十郎伯。同女六郎梅山は西郎。園十郎友人衛立也。扇をと奉りけ。言舞  
 たとせしる内。俄も風吹て例に。少徐る射の亡びる。物語はけて長崎次郎と  
 奉名をこの。女つねに櫛。後家系ありとあり。之此亦大で。生西郎これ。此の  
 幽魂とて産女の心。浄より夜鶴雪毛衣。常盤時。兼を美連中。之相。瀬  
 いがの守。陳。存。浄。の寺の。僧。和尚。徳。小山田。女。房。之。機。在。代。年。なり。  
 大詰。善助。園十郎。友人。雪。の中。幸。壇。門。の。荒。本。の。た。て。大。評。判。の。都。人。世  
 何事も。出。情。少。と。芝。居。一。の。大。河。り。と。評。判。なり。

○毎日の狂市。組市川栢庭。同とて俗。法。季。和。を。り。と。して。即。真。の  
 おか。ま。や。う。う。み。み。首。首。の。あり。と。南。首。の。ま。ま。く。洗。猿。と。笑。ひ。と。あり。ん。が  
 唯。ね。ま。ま。よ。ん。ゆ。う。ま。と。白。猿。い。か

年よりれ。嗚呼。は。が。も。な。く。後。れ。後。夜。の。目。も。あ。ら。ど。目。を。も。ち。く  
 今。より。の。悪。心。を。さ。け。家。語。教。自。身。く。う。ま。が。故。か。た。ら。と。か。く。後。を

新巻ののれーと後を

宗法。の。を。と。い。い。今。う。み。ぬ。ま。ま。と。て。今。と。日。向。の。と。う。う。な。なり

在。撰。法。師。の。あり。と。後。然。芳。志。と。や。う。と。と

我。い。ろ。芝。居。の。辰。巳。あ。ら。も。さ。む。世。を。牛。島。と。人。い。え。と。も 白猿

法。具。負。の。籠。り。て。鼻。が。た。く。ま。ん。せ。う。拙。者。ハ。不。動。信。こ。う 全

月。兔。と。え。と。今。ぞ。階。積。る。雪。ハ。垣。根。の。そ。と。の。樂。み 全

隅。田。川。溪。父。も。あ。つ。風。む。ひ。て。白。猿。む。り。を。お。れ。な。り 全

金。山。寺。と。ぞ。知。ら。ば。の。樂。と。本。来。と。て。痛。く。り。む。れ。な。り 全

新巻ののれーと後を

有。か。う。か。り。人。籬。の。か。ら。紋。大。入。豆。ふ。と。好。の。か。け。ら。せ 全

いて。は。よ。れ。ま。い。の。ま。厚。氷。ま。れ。ね。棧。差。て。入。り。め。り。く 全

此。外。今。日。お。の。敷。ま。ら。れ。た。箱。の。こ。に。り。に。今。日。歌。白。猿。一。首。也。狂。哥

を。の。白。く。れ。む。り。も。も。記。と。凡。三。百。吟。満。り。



長き次郎 國十郎

小山田宗助 義助

龍宮でございさやうたる後よりの膳のばいりは上の入り

白猿の口上はふおぬ人の耳ももろてりさうしうまじ

糸巻てん見さうひまきひとさうさうまじとさあ君か口上

は上の枯あも花をさる町らじくのちういさうさうまじ

おりのどの山うら川のちういさうさうまじとさあ君か口上

式亭三馬  
 浅草庵市人  
 銭屋金持  
 四方真顔  
 前の四方

今年霜月桐長桐仮芝居参りて市村羽左衛門府再奥顔見勢 **花櫓橋系圖** 新田

義春中村傳九郎治右衛門のお袖弟三郎半の綱を曳ての物は野々三郎と嵐と八和田の

新三郎と藤五郎。あんとて有て道真参り高氏中松助令冠白衣もて清洲の侍

坂東又を郎。義三郎の首を討んとする西村上彦四郎義照市川男女共参りくの出陣判止

四五目小楠正行と府の多賀市二役八百義村三郎女房あがみ松本弟三郎。あんとて

西飛ぬり。五五目けんけん丹後長井三助お留分奴さうさうあふの三郎。あんとて

尾上松助あて市川春久あて七ツの行ひ肩車あをかせ。あんとて母様井あてあんとて

あんとてあんとてあんとてあんとてあんとてあんとてあんとてあんとてあんとて

あり妻麻孫之郎は男女を六立目侍後の之郎より侍五郎。上段武家中勢は松助八七  
 の之の首領を討つ。此とて身斬りなど後ふて斬られ本名相持次郎時行  
 と名する。前妻とて相米之郎。下段今内実へ志望の源八。嵐六。丸松明林の神  
 尾上栄之郎。同修之郎。月二。目浄福理。戀相模園の取組。富本豊前。まは日延壽  
 月大和。まは之。後三保。崎兵助。多羽。里長。般。善。面。の。水。葉。香。の。お。残。り。ま。ま。之。衆。  
 考七。盛。長。を。男。女。を。戸。野。の。大。流。を。と。八。あ。人。角。力。の。正。他。服。を。助。八。百。形。何。と。も。大  
 て。な。く。當。午。年。霜。月。五。日。三。代。目。嵐。七。五。郎。終。る。始。の。名。安。詳。院。圓。智。日。妙。信。士  
 浄川。浄。心。寺。中。小。印。を。残。と。同。形。見。世。森。田。所。本。記。員。の。船。調。人。王。九。十。八。代。後。宇。多。の  
 院。ま。の。皇。子。國。仁。親。王。藤。田。か。入。流。八。雲。の。ほ。ろ。の。坂。東。新。孫。六。入。道。は。十四。郎。  
 五。丈。院。の。掃。門。は。中。島。和。田。を。ら。奴。ら。う。存。實。六。戸。野。の。大。流。を。友。を。あ。て。あ。の。や。姫。は。市。川  
 の。え。清。寺。の。袖。は。民。之。助。あ。人。小。沢。火。を。極。ら。せ。ん。と。て。下。へ。藤。塚。傳。賀。を。め。く。園。義  
 志。は。く。く。昭。登。次。郎。長。助。市。川。荒。五。郎。佐。世。川。市。松。元。服。を。ま。は。後。と。の。園。義。子。子。改。名。を。月。四。立。目。浄。福。理

本記員の船調

森田所

舟まの船目  
四立目



舟行者 園義

海舟の船目

本記員の船調

舟まの船目

連弓色引方常磐津兼左美同細左美日春代左美之味線岸次小式部相助  
新田義貞不彦之節勾当の内侍のし向也之義貞牛ふのりて居る手綱と十二重  
の形也て此し向持と五郎奴の形也て因之節之くさる也。大内の後佐つひ梅枝  
民之助日柳葉と尾の元浮ふひ中村令義通ひ路中村権之助四人おまじ奴の  
形也て此れぬり。因之節実のふ五郎奴伊栗持左美と楠義淳より切あると名義  
のふ年付は後津三河田の之年不等五郎。友人志刀を争ひ谷之蔵とト廻國の修行者  
幡龍市川團右衛門せり出。義之節細六郎左美ゆて忍びの姿友人ゆひ入有てだんまり  
の幕入評判なり。同五目目團右衛門八尾の大膳政氏ゆ。上使ふ事り。細六郎左美門  
表之節之慶老と之のふすれ謀る付が家は長邊かづゆ方と為基と名のる  
亦は。女房中より木小常世。六郎左美女房志弓と母屋奴さる平荒五郎。見世物師  
團果りのれ太右と和国老と大館之節は市川門之節 中山橋八團右衛門子と成  
このうらむ無不改名なり 日二書目  
伏見の町れ貝屋屋流平次不友義食定次形徳実ハ小山田を節と義之節。流平次

娘小は常世兄令五郎後と太右表七表田か入流。さとと徳金流三流と坂東常次  
女肝美ゆたののちか孫と和国老と五代院の十郎坂田惣十郎。元桐左七と團右  
女房雪の戸中のし向上下とあるおしとぬり。ゆも大でた大評判也。  
前板一の巻九例と云寛永元甲子年芝居始より。文化七庚子年迄。  
百八十七年が間全部八巻と記とゆゆと述るといふも。彼の足つと筆乃  
はしと数多く成り。寛政十年年まで八巻中満了。今家本筆耕彫刻  
校合は延つゆのり故。まづ八の巻とくく出して。残る寛政十一己未年まで  
より文化八年未年霜月顔見勢まで十二年が間と。九の巻十れ巻と  
あて。来り壬申年の新板也出と。此巻小著と云来り。六代目團十郎助六  
岩井久米と節徳角友人初役中村のし向名残狂言。尾上松助早登りて  
狂言。嵐雛助下り六歌仙石川五右衛門と澤之節萩野伊之節と改名ゆゆ。  
義助坂東と節五郎と更名中村と助徳川義之助より踏考と改名ゆゆ。

名第之助は四郎と改名。及び彦七は目園十郎と改名。白猿再勤市川園彦  
 名第順六は友人の丑合大角の弟。宗十郎下り。源之助。宗十郎。田之助。出  
 次。中村。市川市。三十三郎下りの評判。市川八百助  
 助。高助と改名。坂東彦三郎一世。舞廻。源之助。目目。源  
 宗十郎と改名。其外。後者。立身出世。始。終。の。中。を。委。く。あ。ら。わ。せ。り。古。事。本。に。自  
 名。人。上。の。傳。後。者。の。傳。結。ぶ。所。に。中。詳。は。速。亦。往。古。芝。居。の。繪。圖。  
 百年。以前。の。役。者。附。の。正。字。或。は。表。繪。者。板。招。軒。の。始。り。お。至。す。て。悉。く  
 記。と。余。の。贅。言。を。披。閱。し。知。え。し。と。云。爾。

歌舞伎年代記卷之八甲

010190605642

